

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	平成28年度第2回さむかわ男女共同参画プラン推進協議会		
開催日時	平成28年9月9日（金）午前10時00分～午前11時30分		
開催場所	寒川町役場東分庁舎第2会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p><推進協議会> 出席委員：三澤会長、橋本副会長、大関委員、松谷委員、小島委員、山本委員、野田委員、加藤委員、中島委員、伊與田委員、原委員 欠席委員：松谷委員、中村委員、及川委員 <事務局>中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、木下協働文化推進課主査、山本協働文化推進課主任主事 <傍聴者> 2名</p>		
議 題	1 第3次さむかわ男女共同参画プラン平成27年度事業実績評価及び5年間の評価のまとめについて		
決定事項	○今回の会議録承認委員に原委員、大関委員を指名。		
公開又は非公開の別	公 開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会 芹澤協働文化推進課長</p> <p>2 あいさつ 中島町民部長</p> <p>3 議事録承認委員の指名 今回の承認委員に原委員、大関委員を指名。</p> <p>4 議題 （1）第3次さむかわ男女共同参画プラン平成27年度事業実績の評価について及び5年間の評価のまとめについて</p> <p>山本主任主事 会議資料の確認。次第、資料番号1（委員の個別の記入用紙に皆様のご意見が網羅されたもの）、資料2（事務局提案、基本目標ごとに4枚の両面印刷されたもの）、机上配付資料は、参考資料A3の用紙、さむかわ男女共同参画プラン平成27年度事業実績及び5年間の総評、2市1町講演会チラシ「介護は突然やってくる」。 「第3次さむかわ男女共同参画プラン」平成27年度事業実績評価及び5年間のまとめについてご説明。 ご提出いただいた個別事業の意見用紙を事務局で基本目標ご</p>		

とにまとめ、個々に対するものと、事業の総評的なものに分け、事前に送付し、お目通しをお願いしているが、ご自分以外のご意見等も見ていただくことで、さまざまな視点からご審議いただき、評価をまとめ上げていただきたい。

この会議で総評としてまとめたものは、後日、町民へ公表する。前回の配布資料、平成26年度の事業実績報告には、各事業ごとに担当課が評価したものはそのまま載せ、委員からいただいた個々の事業に対する意見は、各事業の右端に掲載し、基本目標ごとに最後に総評をまとめる形とっている。

参考までに、前回、会議資料としてお配りした、昨年度の状況をまとめた平成26年度の事業実績報告を開いていただきますと、各事業ごとに担当課が評価したものはそのまま載せ、委員さんからいただいた個々の事業に対する意見は各事業の右端に掲載している。

第3次さむかわ男女共同参画プラン平成27年度事業実績評価及び5年間の総評(案)をごらんください。平成27年度は第3次さむかわ男女共同参画プランの最終年度であることから、5年間の評価についても、担当課に各事業に対する評価とその理由を記載していただいている。

委員の皆様からのご意見をいただいて、ちょっと濃くなっている部分が、まず5年間分の事業の部分、例年どおり基本目標Iについての総評を、27年度の評価と5年間分の評価、それぞれを記載させていただき、公表する形にしたい。昨年度の形式に加え、5年間の評価をまとめていくことでよろしいかを、ご検討いただきたいので、会長、お願いします。

三澤会長 評価をまとめるに当たり、この形で通常どおりだと、この協議会の評価が入りますが、第3次の5年間の総評をここの黒いところに入れていく形で進めたいという事務局からの提案です。別途、別の紙に5年間の評価をまとめる方法もあると思うが、皆さん、どうでしょうか。この書式で、5年間も加え、総評を意見として出していく形でよろしいか。

(「はい」の声あり)

三澤会長 それでは、27年度分の評価は、さかのぼった5年間の評価を加える形でまとめて、公表していくこととする。

山本主任主事 事務局案のとおり平成27年度分に5年間を加えた形で事業実績評価報告を作成する。

前回の会議資料の訂正がございませう。第3次さむかわ男女共同参画プラン平成27年度事業報告及び5年間の評価で、資料2をお持ちでしたら、2ページ目をごらんください。事業番号1、管理職への女性の登用の推進の27年度の実績値について、総務課から14%で実績報告を受けておりましたが、端数調整に誤りがあり、正しくは13%になるとの訂正がございました。

評価のまとめについて、事前送付した資料の事務局提案は委員の皆様からいただいた意見を事務局で総評として取りまとめたもの。これをたたき台にして、皆様から肉づけ、削除、修正等をしていただき、まとめ上げていただければと思う。

基本目標ごとに委員の皆様から意見をいただいた。個々の事

業に具体的な提案をいただいたもの、総評的なものもあった。共通した部分を中心に総評として取りまとめをし、事務局案とさせていただいた。あくまでもたたき台として作成したもので、皆様のご意見で、出された意見を全て記載するほうがよいのであれば、そうしていただいても構わない。

また、個々の事業に対する意見で、重複した内容がある場合はある程度まとめてしまってよろしいかどうかについて、あわせてご検討いただければと思う。

三澤会長 今、提案がありました事務局案として、資料2は私たちが提出した意見をまとめて、事務局案をたたき台として出しているものです。それについて、もう少し肉づけをしたりとか、この文言はちょっと削除したほうがいいんじゃないかというところでやるパターンと、例えばですけども、皆様からいただいた5年間の総評のところをぼんと全部出す方法もありますが、どのようにしたらよいかという意見をまずは伺いたい。挙手にてお願いします。

協働文化推進課長 資料1では、委員の皆様からいただきましたご意見を全て載せさせていただいている。平成27年度の事業実績、それから第3次の5年間の個々の事業に対するご意見や、総評的なご意見もございましたので、各事業に対するご意見、それから総評的なご意見というのを、27年度分だけの部分、5年間の部分という形で事務局で取りまとめたものが資料1となる。

これに基づき、委員の皆様には基本目標ごとに27年度の総評をまとめていただく、また、第3次でございます5年間の総評もここでまとめていただくという形になる。まとめていただく総評の案を資料2で事務局のほうがこちらの皆様のご意見の中から、意見の重複しているものですとか、多かったですご意見を中心にたたき台としてまとめた。このように、幾つかのご意見から要素をピックアップしたものを総評としてまとめ上げていただく方法もございますし、逆に、皆様からいただいた意見はそのまま総評として載せるべきではないかというご意見もあるかと思うので、委員の皆様のように、どういう形で総評として報告書にまとめて上げていくかということをご意見いただきまして、どちらの形をとったほうがよろしいかというところをお聞かせいただければと思う。

三澤会長 ご理解いただけましたでしょうか。

大関委員 事務局は報告書書式の範囲内に掲載したいから、意見をピックアップして載せたいということですよ。できるだけそっこのほうに進めていただけませんかということですよ。

協働文化推進課長 はい、そうですね。それで、今までの4年間もそういう形で載せさせていただいたので、できれば皆様のご意見をまとめた文章を総評という形でまとめ上げていただいて、載せさせていただければと考えている。そういうご提案をすればよかったんですが、申しわけありません。

大関委員 要するに、そういうふうに合わせて載せていいか悪いかを判断してくださいということですよ。

協働文化推進課長 はい。よろしく願いいたします。

三澤会長 山本委員、どうぞ。

山本委員 この資料2事務局案を見させていただいたが、まとめ過ぎて、主語がなかったり、意味が伝わらない。十分その内容が伝わっていない感じがする。文章もつなげようとし過ぎてしまい、結局何が言いたいかわからないといった形になってしまっている、そんな印象を受けた。

資料2の最初、例えば基本目標I、あらゆる分野での男女共同参画の推進、平成27年度評価の一番最初の丸ですけど、いきなり、優秀な人材を確保するための採用方法みたいな形で始まっているので、これは、こっちの個別の意見を見れば、この町の女性職員の管理職登用の件のことなのかなと思うんですけど、この評価だけだと、ちょっとよくわからなかったりするので、総評で書く場合はもう少し具体的に書いていかないとわからないのではないかと。

三澤会長 ありがとうございます。小島委員。

小島委員 山本委員の意見と大体同じですけど、やっぱりちょっとわかりにくいのと、せっかく評価の中に、ある意味この、採用方法の検討というふうに一口で言っちゃうと、どういうのが検討なのかというか、何かわからない。そうすると、この意見の中には具体的に、例えば、中途採用の問題とか、いろいろそういう方法なんかも入っているわけですよ。ここには書いていないけど、例えばクオータ制の問題なんかもあるし、そういうことだとやっぱり具体的に、あるいはどういう提案がされたかということが反映されないとほんとにわかりにくい感じですよ。ですから、確かに量的なものもあるかもしれないけれども、そういうある意味具体的に提案された部分については入れ込んだほうがいいと思う。

三澤会長 ありがとうございます。中島委員。

中島委員 とても簡潔過ぎてしまって、私たちはやっているのですが、何のことかというのがわかると思いますが、全く初めて見た方が、この評価を見て、この協議会の中でこれだけたくさんいろんな意見が出ているのに、あまりにも簡潔過ぎてしまって、内容がどうなんだろう。協議会でせっかく皆さんの意見がこれだけたくさん、細かく具体的に出ているところが、何かあらわれてこないかなというので、少し残念な感じがするので、もう少し皆さんから出た意見を具体的にした文章で出したほうがいいかなと思う。

三澤会長 ほかにご意見ございますか。皆様から意見を頂戴しまして、私も同感で、これはちょっと、初めて見られる方が難しい、何を伝えたいのかわかりづらいなと感じた。ただ、本来であればなのかもしれませんが、会長である私がたたき台をつくり、それで、この場でたたいてもらってとなるが、これはあくまでも事務局が案として出してくださったものですので、ここを膨らませてもいいし、こちらの皆様から出た意見をつなげるでもいいし、ボリュームの問題もありますから、ちょっと重複している部分もあるので、もう少し膨らめたいと思う。

ここで一からやっているとお泊まりセットが必要になっちゃ

うかもしれないので、案として出していただいているので、どうでしょうか。もうちょっと膨らませる、もしくはこのまま、例えば27年度の評価についてはともかく、5年間の評価については、あまりにも簡潔過ぎるので、ボリューム的にちょっと見たんですけれども、そんなに5年間の評価についてたっぷり出ているわけでもないです。でも、目標Ⅰについては、4ページのところの目標Ⅰの総評は結構がボリュームがあるので、これをまとめるとなると大変です。ただ、これだと、文言も含めて、ちょっと変かなと思う。

加藤委員 5年間ずっと積み上げてきたわけですから、毎年、毎年。それで昨年度、またそれを集結したものをこちらで評価を出したわけですから、この具体的な意見が昨年度のも全部出ています。それは、ずっと5年間積み上げてきたときの最後の年なので、その最後の年の分を具体的に全部載っているものを公表したほうがいいかなと考えている。

三澤会長 確かに私も5年間の1年目からこの活動にかかわっていないので、どのように5年間の間に変わっていったのか、世の中も含め、また、行政の評価が変わっていったのかは、ちょっと把握し切れない。ただ、27年度は単年度としての事業ですので、前年度これができなかったから、26年度できなかったから27年度はもう少し努力が必要だから、進めていこうと思ってやった単年度だと私は思っていますので、もちろん5年間の積み重ねの1年ではあるんですけど。だから、27年度が全てではないと私は思っていますが、ご意見はありますか。

町民部長 事務局案がかなり簡潔になっているところでご議論いただいているところだと思うんですけども。

三澤会長 そうですね、さっぱりしています。

町民部長 先ほど大関委員からありましたように、事務局としてこういうふうにしたいのかということですけど、理由としては、初めて読んでいただける方に、網羅的に羅列したものをみていただくより、ある程度まとまった形のほうがいいだろうということですが、ただ、皆様がおっしゃるような、わからないよとか、もうちょっと肉づけしたほうがいいよということですので、肉づけはさせていただくとして、それと、皆様からせっかくいただいた案なので、これを参考資料として最後にまとめてつけるのも一つのやり方なんじゃないかなと思いますので、その辺も含めてご検討いただければなと思う。

三澤会長 わかりました。そうですね、まず、事務局案を肉づけすると。言葉、記入法も含めて肉づけをすると同時に、それは添付で、パソコン上で見ることができるとのことですね。

協働文化推進課長 整理を一回させていただくと、27年度の事業の総評、総合的な、総括的な評価というのは今までと同じ形で、基本目標ごとに27年度の事業内容や各課が自己評価した課題に対して、委員の皆様からご意見をいただいておりますので、それをまとめて、基本目標ごとに今までどおりの実績報告みたいな形で載せさせていただくというところは、まず、そういう形で進めてよろしいか。

三澤会長 よろしいでしょうか、そういう形で進めて。つまり、案として出ているものに対して、もう少し肉づけはするけれども、27年度の評価についてはこの文章で進めたいということですね。あとその表についても。

協働文化推進課長 これはあくまでも事務局のたたき台として作成したもののなので、これにこういう文言が必要じゃないかとか、こちらの意見をもっと入れたほうがいいんじゃないかというご意見をいただけたらと思います。それで、27年度の評価につきましては、これまでの4年間と同じような形で取りまとめた内容を基本目標ごとに総括的な評価ということで、総評という形で載せさせていただくということですのでよろしいでしょうかというところを、まず一点確認させていただきたい。

三澤会長 まず、27年度の評価はそういう形で進めるというところよろしいですか。評価についての出し方は。

大関委員 そういうところというのは？

三澤会長 そういうところというのは、事務局案として出したところ、1ページ目に肉づけをして、それで、まず27年度の評価とすることはいいという確認はしましたよね。いいですか。それから、27年度の総評についても肉づけをしつつ、27年度の総評を載せていくと。

協働文化推進課長 5年間の総括的な評価については、5年間の総括的な評価として、形式としては先ほど大きな表でまとめさせていただきましたが、その部分については先ほどちょっと、いや、これまでもきちんと載せたほうがいいんじゃないかというご意見もありましたので、そのまとめ方をどうしたらいいかというところは、皆様にご意見をいただければと思う。

三澤会長 5年間の総評について、全部載せたほうがいいのかというところをご意見いただいたので、それを皆さんに諮る。

協働文化推進課長 それで今、部長が提案させていただいたのは、先ほど机上配付させていただいた、こちらの5年間の総評のこの部分については簡潔に、ある程度ポイントを絞った文章で、要約したものを載せさせていただいて、ただ、やはり今までの委員の皆さんから出た意見というのがるのであれば、それは全部載せたほうがいいのかではご意見があったので、資料でお配りしたこちらを参考資料的に、こういうご意見が実際には出ているというのをつけて、報告書としたほうがよろしいのではないかというお話をさせていただいたんですが、そこで、そういう形にまとめさせていただければよろしいかどうかというところですが。

三澤会長 資料2のこの5年間のところは、これをたたきに膨らませて、この5年間に載せていくと。

協働文化推進課長 載せていきたいと考えているんですが、ただ、各委員の皆さんから5年間の総評的なご意見もいろいろ出ているので、それは全部載せたほうがというご意見も今ございましたので。

三澤会長 添付というか。

協働文化推進課長 添付でこの資料1というのをつけた形で報告書とし

たらどうかというお話を今、部長のほうからさせていただいたと思うんですが。

三澤会長 そうですね。ただいま提案がありましたように、27年度も少し膨らませないといけないけれども、この形の5年間の総評をここの表の黒い部分に入れていくという形で進め、皆さんからいただいたご意見は添付というか、資料として載せていくという進め方でよろしいでしょうか。

山本委員 この表の推進協議会の事業別意見欄ですが、「平成27年度」と「5年間」の事業別意見欄には何が入ってきますか。

協働文化推進課長 資料1をごらんいただきますと、例えば資料1の1ページ目、事業番号1、ここには管理職への女性登用の推進という事業に対してのご意見をいただいている。27年度の事業に対する個別のご意見と、それから、その下に23から27年度までの5年間の実績とか、5年間の各担当課が評価した内容に対してのご意見をいただいている。その5年間のほうのご意見を事業ごとに、この5年間の事業別意見欄にまとめさせていただければと考えている。薄いグレーの欄に、事業別のご意見はまとめて載せさせていただく。

山本委員 こちらの資料1に載っている意見は、事業別意見欄にはそのまま、記載されますか。

協働文化推進課長 それは先ほど、事務局の担当の山本のほうからご説明申し上げたとおり、かなり重複しているご意見とか、あと、中には文章的に長いものについては事務局である程度まとめさせていただいて、事業別のご意見はご意見としてこの27年度の方、それから5カ年の分というのを載せさせていただきたいと考えている。

三澤会長 それをたたきとしてまとめたのが、この資料2ですよ。

山本委員 これは総評欄に入ってくるんですよ。

協働文化推進課長 そうですね。総評欄に入ってくる。基本目標ごとに総評という形で、例年、報告書でまとめさせていただいている総評の欄のたたき台ということです。

三澤会長 下のところに出てくる。

協働文化推進課長 基本目標ごとに総評をしていただいておりますので、そこは、皆様から事業別でいただいたご意見とか、また、総評的なご意見もいただいているのをまとめて、たたきとして事務局でこれをつくらせていただいた。

伊與田委員 今回の資料1とか資料2とあるんですけど、今日出された参考資料のまとめの部分でいうと、参考資料の一番下の推進協議会評価と一番左に書いてあるところで、27年度、それから5年間の評価というのは資料2でどうかというのを今お聞きになられていて、上の部分の事業別は、我々のほうから出したものを、改めてもう一度事務局のほうで落とし込みをされてつくりますよということをお聞かされているわけですよ。

協働文化推進課長 すいません。27年度と5年間がごちゃごちゃになって申しわけありません。今日、机上配付していただいた資料に基本目標ごとに委員の皆様には総括的な評価、総評という形でこちらをつくっていただいておりますので、薄いグレーの部分

が27年度の評価を入れていただき、濃いグレーの部分の5年間の総括的な評価をいただくと。そこに入れる文章のたたき台が資料2として、事務局がたたき台を作成させていただいたという感じです。

伊與田委員 そうすると事業別の、この後少し取りまとめられたり、要約されたりというのは、また別途何かこういう形で協議をされるということですか。

協働文化推進課長 事業別につきましては、例年は事務局で取りまとめたものを委員の皆様にお送りして、確認をして、ご意見をいただくという形をとらせていただいている。事務局で重複したものや長いものはまとめさせていただいているので、ご自分のご意見の趣旨が変わっていないかとか、その辺を確認していただきたい。

三澤会長 皆様からご意見をいただいたものを事務局が取りまとめて、郵送で送ってくださるようですので、その段階でまた見て、ご意見があるようだったら直接やりとりをして、加筆なり、ここ間違っていますよ、修正を入れてもらったりという形で進めるというふうに。別途、また会議を設けるということはありませんので。そういう進め方でよろしいか。

では、確認ですが、これから、出されたたたき台に対して意見を皆様からいただくという形で、その意見を取りまとめて、また事務局が肉づけ、加筆修正して、それをこの表の中に載せていくという進め方でよろしいか。

小島委員 すいません。ある意味、みんなから意見が出たんだから、本来だったらここに落とし込まないと、なかなかイメージがつかない。

三澤会長 イメージがつかないですよ。

小島委員 本来は事務局から今日あたり意見を落とし込んだ資料が用意されていれば良かった。こういう自分のところの評価と、ちょっとばらばらに見なきゃいけないということもあって、とてもわかりにくい。

三澤会長 ちょっと混乱しますよね。

小島委員 そして、今日、一応みんなから意見が出ましたよね。出たものを、これに落とし込んだものが来るわけですよ。

三澤会長 そうです。

小島委員 そうしますと、それについては、個々に返すということで、別に集まりは持ちませんよということですか。

三澤会長 そうです。

小島委員 できれば、私はもう一度集まりを持ったほうがいいかなと思っている。意味が少しずつずれたりもするし。

三澤会長 一番いいのは会議を持って進めることだと思いますが、時間的にもタイトという部分なのかどうなのか、事務局のほうでそこら辺のことがあれば、どうぞ。

協働文化推進課長 事務局では、こちらの資料を事前にお送りさせていただいて、委員の皆様にお目通しをお願いしている中で、今日、皆様に会議でお集まりいただきましたので、個々の委員の皆様からいただいている意見についても、このまま個別の事業ごと

のところに載せる意見として、これはどうなのというご意見ですとか、ここは絶対載せてほしいというご意見ですとか、またご自分の意見の漏れがないかも含めて、個別の事業についても一度確認をしていただき、その上で総括的な評価について、そういった意見を踏まえた総括的なこちらのたたき台に、もうちょっとこういうところを肉づけしたり、この意見がやっぱり重要だから、ここを肉づけしたほうが良いというところをまとめていただければと考えている。それを基本目標ごとに個々の事業の意見を確認していただいて、総括的な評価について、またご意見なり修正案なりをいただければと思う。

三澤会長 わかりました。皆さん、その進め方でよろしいでしょうか。資料をごらんいただいてきていると思いますので、たたき台も含めて、そこに加筆したい、いや、ここだけは載せてもらいたいというご意見がありましたら、この場でお出してください。

それでは、基本目標ごとに順番に見ていきたいので、まず、進め方としては、委員の皆さんが出してくださった資料1のところにご自分の意見の漏れがないかどうかというところをご確認をお願いします。

協働文化推進課長 それで、まず、基本目標のIで言いますと、資料1の1ページから4ページまでが基本目標Iになっておりますので、お願いいたします。

三澤会長 基本目標I、4ページまでのところで、私は確かに書いたはずなのに載っていないなどという意見や何かがありましたら出してください。皆さん大丈夫でしょうか、載っていますか、ご自身のご意見。それでは、基本目標II8ページのところで漏れがないでしょうか。それでは、基本目標IIIのところ、14ページになります。基本目標IV、最後の16ページまでのところで漏れがないかご確認いただけましたでしょうか。

それでは、次に各事業についての意見はこれでよいか確認をしていただきます。ただ、この場で、先ほども申し上げましたとおり、意見を一からまとめていくというのは大変なので、事務局が作成してくださったたたき台をもとに委員の皆様を確認してもらうこととなりますが、それで進めさせていただきます。

それでは、まず基本目標Iについて、各委員、ご自分の意見の確認をお願いします。これは事務局の確認が済んでいるので、自分の意見で漏れがないか皆さん見ていただいて、ないようです。よろしいでしょうかね。

協働文化推進課長 そうしましたら、次、基本目標Iの部分の総評について、事務局提案をたたき台にさせていただきまして、委員の皆様からご意見、それから修正案等をいただければと思う。

三澤会長 それは資料2のほうのたたき台を見ながら、事務局案について、加筆修正があればご意見をお願いします。まずは27年度の評価について、ご意見や、もう少し加筆したほうが良いというものがあればお願いします。

それで、先ほど山本委員からもあったように、ちょっと主語が抜けたり、随分スリムにした関係で何を言いたいのかよくわからなくなっているところがあるんですね。私の意見ですが、

一番上の丸、「優秀な人材を」の前に「職員の」と入れないと、企業なのか町なのかがわからない。

山本委員 そうですね、これは。

三澤会長 これは職員のことを言いたいんですよね。

山本委員 「町職員の」とか、「町職員の管理職女性登用の推進に向けては」とか、何かそういうのがないとわかりづらいかと思う。

三澤会長 やはり主語を。あと、何かこの27年度評価のところ。

小島委員 例えば採用方法のところ、こちらのほうにもいろいろな意見が出ていると思うんですよね。例えば女性の積極的採用とか、あと中途採用の問題とか、何か優秀な、そういう事例的なものを括弧の中に入れてほうが、「など」とかね。それだけじゃないですから、ほかのとか、そういうのも入れるとかしたほうがわかりやすいのではないか。

職場づくりのところに子育て支援とか介護支援とかが入るのはちょっと変かなということです。職場のだったら、いろんな、そういう取りやすい環境とか、例えば職場の人の理解とか、そういうのが必要ではないか。

三澤会長 それは一番上の丸のことを言っていますか。

小島委員 一番上の丸のことです。

三澤会長 これは、一番上の丸について、こちらの資料1のページのところで、この意見を出された方は、町の職員のことですよ。

それで、その次の下の段に、中途採用。

小島委員 そうじゃなくて、例えば「採用方法を検討する」というところに、括弧か何かで「働きやすい職場づくり（子育て支援、介護支援）」と書いてあるんだから、そうすると、どういう検討をするのかということに対して、提案の中に、意見の中にあるので、そういうのを入れておいたほうがいいんじゃないかということ意見で言ったんですけど。

加藤委員 具体性がないということですよ。

協働文化推進課長 わかりました。そうしますと、例えば「人材を確保するため、中途採用などの採用方法を検討するなど」という、そういう何か具体の。

小島委員 ちょっとピックアップして入れたほうがいいと思う。

三澤会長 では、「町職員の優秀な人材を確保するため、中途採用など採用方法を検討するとともに」みたいな文章にしていくということですよ。

小島委員 だから女性の積極的採用とか。女性というのがないですよ。町の職員だと男女含めて、男女含めてだとは思いますが、特に女性の管理職の登用なんかも率が低いわけですよ。ですから、やっぱり積極的に女性の採用とか、そういうのを進めていく必要があると思う。

三澤会長 この文章の中に「女性の積極的採用」。

小島委員 「採用方法を検討」の後に、括弧か何かでやったらどうかというふうに、こちらの意見を反映させたほうがいいんじゃないかという意見です。

三澤会長 「採用方法を検討」の後に、括弧で「女性の採用等」ですか。

小島委員 「女性の積極的採用」や、例えば、ここに書いてある、優秀

な人材、中途採用等とかを入れたほうが、より具体的な意見が出て、それが反映されていることになるかと思うんですけど。

三澤会長 どうでしょうか。

協働文化推進課長 そうしましたら、例えば頭のところに「町職員の女性登用を推進するには」みたいな文言を入れさせていただくと、「優秀な人材を確保するため、中途採用をはじめ採用方法を検討するとともに」という形でよろしいですか。

小島委員 そういう文章でつなげて構わない。

三澤会長 「町職員の女性の」というのを入れる、前に持ってきて入れるということですね。

協働文化推進課長 はい。そうすると、中途採用というのも女性に。

三澤会長 かかってくるということね。

協働文化推進課長 かかってくるかと思う。

大関委員 これは男女参画の資料なので、あくまで男女参画の資料だから女性を入れなかっただけじゃないんですか。というのは、多分事務局のほうは、全く知らない人でも一応読んでもらいたい。要するに、読んでもらいたいから、できるだけ簡潔にしようと思ってるんだと思うんです。だから、そこでこれごと、女性に対しての資料じゃないですか、全部が。

三澤会長 男女ですかね。

大関委員 でも女性をメインにやっているの、自分なんかが見ていると、書いていなくても、何となく女性のことを言っているんだろうというのが想定できるんです、だから、多分事務局のほうは、要所だけつかんで、できるだけ短い単語で書いて、全くこういうのを読まない人にも読んでもらう。こういう資料というのは、長くなればなるほど読まない人が多くなってきます。多分、この中でこれだけ議論しているので、皆さんは細かいことも全部気になるんですけども、これを読む人は町の中の一般の人であって、その一般の人が最初から最後までびっちり書いてあるやつを読むかといったら、ほとんどの人が読まなくなってくるんですね。であれば、その要点で一番大切なところだけが伝わればいいんじゃないかと自分は考えていたので、だから、あまり細かく細かく、わかりやすくわかりやすく書くからこそ、わかりにくくなる可能性も出てくると思う。だから、ある程度の要所要所でいいんじゃないかと。だから、今言った女性というのはとても大切なんですけども、これは女性参画の、女性がメインにやっているやつですので、そういうのはわかるんじゃないのか。

三澤会長 確かに大関委員がおっしゃったように、文章が長くなればなるほど誰も読まなくなるというのは全くそのとおりだと私も思っているんですけども、ただ、確かに見出しのところに「女性管理職への登用の推進」とか、何というか、そのくくりの中に入っているの、わかると言えばわかるんですけど、「女性の積極的採用」ぐらいの文言だったら、入ってもいいのではないか。

大関委員 自分もそれはいいと思うんですけども、あまり全てにおいて細かくやり過ぎちゃうとよくないのではないかということ

言いたかった。

三澤会長 そうですね、それは注意すべきですね。確かに、文章は長ければいいわけではなくて、簡潔でわかりやすい、伝えたいことが伝わると口で言うのは簡単ですが、難しい。でも今、大関委員がおっしゃった意見も反映しつつ。とりあえず今ご提案があった、あまりボリュームミにならず端的にする中で、一番上の丸のところはよろしいか。

あと、27年度でご意見とかもう少しないですか。私に加筆してもらいたいところがありますので、意見として言いますね。一番下の丸の「企業、労働者に対し社会情勢の変化や労働環境、女性活躍推進法など」、一文がとても長いんですけど、「取り組み状況について丁寧に聴取し、きちんとフィードバックする」。これはご意見を出されている方に、1ページ目に書いてあるんですけども、きちんとフィードバックすることが重要と考えるという、1ページの下から2番目の塊、5年間の評価のところに書かれているんですけども、やっぱり聴取するだけじゃなくてフィードバックしていく、企業にも市民にもフィードバックするということが大事なのかと思うので、そこを足したいと思うんですけど、どうでしょうか。「丁寧に聴取し、きちんとフィードバックする必要がある」の加筆はどうでしょうか。

山本委員 フィードバックは重要だと思います。調査しっ放しではなくて、それをきちんと返していくことによって、また企業の取り組みも推進させていくということが重要だと思う。

三澤会長 27年度単年度の評価についての加筆とかご意見はありますか。

小島委員 2番目の丸の「女性が活躍できる」というところで、いろんな分野がありますよね。だから「あらゆる場で」とか、何かちょっと抽象的かもしれないけど、入れたほうがいいのか。

三澤会長 どこに入れる提案ですか。

小島委員 「あらゆる場で女性が活躍できるための」とか。労働の場でもあるし、社会でもあるし、家庭でもあるし、いろいろな場が地域でもあるだろうし。

三澤会長 地域活動とかね。

小島委員 そういうふうに入れちゃうと長くなるので、「あらゆる場で」とか、あらゆる、場のほうがいいかな……。

加藤委員 「あらゆる分野で」。

小島委員 この上に分野があるからあれなんだけど。「様々な場面で」というのが下にあるか。何か似たような、5年間の評価のところに「様々な場面」なんてありますね。さまざまな、あらゆる、どっちでもいいんですけど。

三澤会長 「あらゆる場で」みたいなことを加筆したらどうかというご意見でした。

あと「主体的に考える機会として資質の向上に結び付くもの」と考える」というのは、国語的におかしいんじゃないかと思うんですけども、「主体的に考え、かつ資質の向上に」……、これは何を指している、講座を指しているんですか。

山本主任主事 そうですね、はい。

山本委員 「主体的に考える力を育てる」とか、そういう意味ですかね。

三澤会長 そうですね、「力をつける」とか「力を育てる」など。ほかにご意見がないようでしたら、5年間の総評に移りたいと思います。私がちょっと気になったのは、下の2個目の丸なんですが、「男女共同参画の推進に対する意識啓発」って何だかわからないので、「男女共同参画の意識啓発を継続するとともに、事業や取り組みを検証し、あらゆる分野」でいかがですか。

加藤委員 ちょっと宜しいですか。先ほど大関委員が述べた意見で、この、男女共同参画の意味は、今、日本は長い封建社会から戦後突然、男女平等を唱え始め其の上、最近政府（内閣府）でも唱えてから7年程経過しているが、是といった、具体的な事は、何も打ち出されていない現状です。理想は（男女といわず）人として、人間として、誰でも気付いた事を協力して、いきる喜びを、生み出してゆく事と思う。しかし、現状の日本は男社会が根強くあり、これは、男性が、先頭に立ち、改善、推進していかないと無理。又男女が共同会議を重ねていかないと、（女性だけ語っていても）理解し、進展していかない。若いも若きも、等しい方向性を位置づけて、進む事ができるか？にある。それには、教育と、限らない男女の協議を重ねていく事しかないと思います。

三澤会長 それはご意見でしょうか。

加藤委員 はい、そうです。

三澤会長 そして、この文章に対する何か対案はございますか。ほんとに全くそのとおりだと思います。一人一人の意識改革も含めて、やっぱり男女がともに変わっていかなければいけないんですけども……。

加藤委員 意識啓発とか、皆さん持っていると思うんですけど、実際にそれを実行に移せない状況があるわけです。暗黙の、見えない抵抗があるわけです。そこをどう破るかというところが問題だと思うんですね。それが破れない限りは、幾ら共同参画をうたっても、一向に進まないと思う。

三澤会長 それで、町の男女共同参画を進めるために、町としてできる事業を展開している。その中に学習会などがある。男女共同参画を推進するために、意識啓発を、それは女性だけじゃなくて、男性の意識も改革していかなくちゃいけないから……。

加藤委員 これは男性がその啓発意識を持ってくれないと。

三澤会長 男性も女性もなんじゃないかと私は思うんですね。

加藤委員 ええ、もちろんそうですけどね。

三澤会長 それを働きかけていると。町として、事業として行って働きかけたことに対して、評価を自分たちでしているの、その評価に対して、よりもっとこういうふうにしていったら、こっちのほうがいいんじゃないかという投げかけとか、やりとりをこの場面でできればいいし、明文化して市民の人にわかってもらうということが大事なのかと思って、今話し合いをしています。

加藤委員 ですから、例えば寒川の中で、女性も男性もこのことに関してどの程度の意識啓発があるかを調査したらいいんじゃないかしら。

三澤会長 はい。いいご意見だと思うんですけど、意識ってどうやってはかるものかが……。

加藤委員 どんな意識を持っているか、どこまで、どの辺のレベルの意識なのか、それを知らないと、語っていてもしょうがない。

三澤会長 それは町で行っているアンケートがあって。

加藤委員 どんなアンケートですか。

三澤会長 資料でいただいているピンクの冊子に掲載されている。

協働文化推進課長 第4次のプランをつくる際に、アンケート調査を昨年5月に実施させていただいたのが、こちらのプランの41ページから意識調査をさせていただいたのがあります。おそらく49ページなんか、男女が平等になっていると思うかどうかみたいな意識も調査結果として載せさせていただいておりますので、ここの結果を見ると、まだまだ意識啓発が必要だというところで……。

加藤委員 26%とか、何かすごく低いですね。

協働文化推進課長 この中から、やはり課題として意識啓発が引き続き必要だというところで、プランの中には、引き続きそういう意識づけという目標を定めている。

三澤会長 途中まで、丸の下のところ、自分で書いたんだけど、ちょっとわからないので、後で意見として、文章で提案させていただきたいと思います。ほかに、5年間のところで。小島委員。

小島委員 さっきの丸のところで、だから「男女共同参画への意識啓発を継続し、事業や取り組みを検証し、女性があらゆる分野で活躍できる、より効果的な事業を進めてほしい」というふうにするればいいのかと思います。シンプルにするとしたら。

三澤会長 でも、それで文章としてわかると思います。今の案でよろしいでしょうか。原委員。

原 委員 ずっと気になったのが、文章にこだわるのはとても大事なんですけれども、今のここの文章にもあるように、このままだと推進に対するだから、何かあたかも推進をやっていることへの意識啓発にとれてしまいますね。

私たちが一番大事なのは、男女共同のこの状態を少しでもよい状況へ持っていく、そのための事業をこれだけやっています、この事業に対する、私たちがこんな意見を持っています、こんな状態ですというのを町民の方に知っていただくのが大事なんですよね、先ほどやっていたように。だから、それをまず念頭に置いて考えないといけないのかと今思った次第です。

三澤会長 そうですね、私もこの「推進に対する意識啓発」というのは、「男女共同参画の意識啓発継続を市でするとともに」とか、「事業や取り組みを」みたいな、さっき小島委員が言ったような文章のほうがいいのかと思います。

協働文化推進課長 男女共同参画というのは、男性も女性も自分が生きたい生き方をそれぞれができるという社会のことですので、男女共同参画という、男女がともにというところの意識啓発はやっぱり必要だというご意見はいただいているところです。

原 委員 すみません、もう一つつけ加えて。

三澤会長 原委員、どうぞ。

原 委員 上のほうに少し戻りますが、何かこう私は逆に、女性が女性
 がとあまり言わないほうがいいんじゃないかと、さっき大関委
 員がおっしゃったような感じで私は思ったんですね。
 だから、女性がと言うと女性のための講座と、それはそれで
 大事だけれども、こっちの介護のように、女だけとか男だけと
 かじゃなくてというふうに思った。

三澤会長 おっしゃりたいことは伝わりまして、まさに私もそう思っ
 ていて、やはり女性も変わらなきゃいけないけど、男性も変わら
 なきゃいけなくて、それはアンケートの結果なんかを見ると、
 やっぱりまだまだ意識のところは下がっているところがあるん
 ですね。それはやっぱり女性ばかりが変わるんじゃなくて、
 男性も変わる。でも、女性が女性がとここの文章に載せるのは、
 私もそれはどうなのかと思っている。

加藤委員 そうなったら要らなくなって、生かされない。本来は男女が
 同席し討議すべき。

原 委員 だから、そのための、もうそれが大前提だから、あえてそ
 こまで女性が女性と言わなくていいのかと思ったんですね。

加藤委員 それで何も言わないで、そのまま自然体で共同参画ができれ
 ば何も、こういう会議もする必要ないですよ。

原 委員 そうなんですけれども。

加藤委員 それが一番理想なことですね。そうなりたいためにやってい
 るわけですね。

町民部長 男女共同参画に結びつく環境整備というような形でいかがで
 しょう。

三澤会長 今、中島さんのほうからご提案があったように、そういう文
 言で進めたほうが私もいいと思う。
 それでは、またどうしても戻りたいときは戻るということを
 前提に、基本目標Ⅱのところ。各委員はご自分の意見の確認
 をお願いしたい。よろしいですか。意見のところを見ましたが、
 特に私が質問したい意見は。基本目標Ⅱ、27年度の中にありま
 すか。
 「意識啓発については、広報、ホームページにより情報発信し
 ているが周知する手段」、点がないんですよ。「周知する手
 段や内容について」……。

山本委員 1番目の丸で、最後の「対象に応じて発信する必要がある」
 というのは、手段を、ホームページなのか広報紙なのかとか、
 そうしたことなのか、何かちょっとよくわからないので、逆に
 事務局さんのほうからここの文章の趣旨をご説明いただければ
 と思うんですけど。

山本主任主事 「対象に応じて」ということに対してということによろ
 しいですか。

山本委員 はい。

山本主任主事 ホームページで情報発信したほうがいいものや広報で発
 信したほうがいいもの、いろいろあると思うのでという意味で
 「対象に応じて」という言葉を使わせていただいた。

山本委員 対象に応じて、手段を工夫するということですか。

山本主任主事 使う相手にとという意味です。

山本委員 対象にきちんと届くように、手段や内容を工夫していきたいという趣旨ですか。

山本主任主事 そうですね。ホームページを使ったほうがわかりやすいというか、伝わりやすい方もいらっしゃるし、ホームページのような環境がない方にも広報等できちっと伝わるような、つまり対象者に応じてという意味で書いた。

原 委員 これは「意識啓発については」とあるから、ちょっと大きいものについて言っているのかなということで、これは手段ですよ。広報の手段についての記述ですよ。

山本主任主事 はい。

原 委員 これは最後のほうでもいいんじゃないかと思うんですけど、最初にならなくても。

大関委員 1点いいですか。

三澤会長 はい、大関委員。

大関委員 ここに書いてあるのは、どうしても27年度は27年度で書いてあるんですけど、結局のところ、この表に全部入れ込んだときに、端から読んでいくと意味が通る文章も結構あるんですよ。だから、ここだけを見ていると意味がわからないというのは、かなり皆さんは思うんですけども、やっぱり落とし込んでいって初めて、つながっていて、このことを言っているんだと簡潔にわかるので、全体のつながりがわからないと、こういう質問ばかりが増えてくるんじゃないかと思われるんですね。ある程度落とし込んで形として見ないと、こういう意見ばかり出てきて、結局、今度はその意見を通して書いてみたらしつこ過ぎるという状況になり得る話し合いなんですよ。だから、ちょっと話し合いの全体の流れがうまくできていないのかなと自分は思うんですけど。

三澤会長 そうですね。落とし込んで、左から右に見たときに、そのときにおかしくないというものなのかもしれないんですけど、これを単品で見ていると、ちょっとわかりづらいという……。

大関委員 そうすると、皆さんが絶対にこれはおかしいというのは当たり前のことであって、やはりどんどん見ていったときになるほどという評価であるので、多分事務局のほうはここを見て書いて、やって落とし込んでいるからわかっているはずなんですけれども、ここにいる人はそこが全くわかっていないので意見が多く出ちゃうんですよ。だから、そこをもうちょっと直さないと、これは幾ら時間があっても進まない話になってくると思うんですよ。多分、左からずっと読んでいくと、何となくわかっていく文章が多くあるので。

協働文化推進課長 そうしたら、会長、申しわけありません。

三澤会長 はい、どうぞ。

協働文化推進課長 ただいま大関委員さんからおっしゃっていただいたところ、ほんとに事務局として申しわけございません。今までがちょっとこういう形で、別立てでご議論いただいたんですけども、特に今年度は27年度と5年間のというところで非常にわかりにくくなってしまったものですから、大変申しわけございませんでした。一旦事務局のほうで落とし込んだものをまた

皆様にお送りさせていただきたいと思うんですが、落とし込む、たたき台が今回はこれなんですけれども、たたき台のこれ以外に、例えばこの部分、もう一つこの事項といいますか、この取り組みが必要じゃないかという、その辺を今日はご意見をいただくという形でよろしいか。

三澤会長 はい。

協働文化推進課長 それを落とし込んで、皆様に全体的な流れがわかるようなたたき台を、報告書のたたき台という形でつくりましたものをお送りさせていただいて、後日お目通しをいただくという形でお願いできたらと思う。

三澤会長 はい、わかりました。

協働文化推進課長 大変申しわけございません。

三澤会長 今のご意見で、27年度の評価につきまして、ご自分が出された意見、もしくはほかの方が出された意見で、ここの部分が落ちているからここは絶対に入れたほうがいいんじゃないかという部分がありましたら、ご意見をお願いします。小島委員、どうぞ。

小島委員 多分、ここの丸の3つから言うと、1つは上のとか人権意識の問題ですよね。意識の啓発みたいなので、2番目が多分、いろんなDVとかセクハラとか、そういう相談関係ですよね。あと、最後のところは健康とかだと分かれて見ればわかるんだけど、最後の丸のところ、やっぱり「男女の」というふうになっちゃうと、結構この中に性的マイノリティーの方の問題とかが入っていますよね。そういうところでいくと、ちょっとそういう視点が欠けているのではないかと思う。

三澤会長 これは、多分目標に対しての言葉じゃないかと思うんですが。

小島委員 目標のね。だから、新たな問題も出てきているわけじゃないですか、今。だから、あまりそこで、目標に対してかもしれないけど、自己評価だから、次の将来に向かっての評価も含めてあると思うんですよね。そうすると、またその辺のところ、男女と限定しないで、やっぱり性的マイノリティーの人たちの問題も含めて、そういう表現にしたほうがいいかと思ったんですけど。

三澤会長 第4次の方針のところでは、マイノリティーの方のことも方針の中には一文が載っかっているんですね。ただ、この第3次のところでは全くそのことに触れていないんですよ。

小島委員 触れていないですね。

三澤会長 それを第4次で反映できたというのは大きな成果だと思っているので、今年度というか、27年度に関しては、ちょっと私もひっかかったんですけど、これでいいのかなと私は思いましたが、皆さんはどうでしょうか。男女でよろしいでしょうかね。今、ご意見を小島委員のほうから伺いました。事務局のほうで何かありますか。よろしいですか。

それでは、平成23年度から27年度の5年間の評価について、この文言は載つけたほうがということがありましたらお願いします。よろしいでしょうか、ないですか。ほんとにくるっとまとめて書いてあるから、これって、この方の意見をまとめるとういう2文字になるんだとは思いますが、添付があれば

どういう意見が出たのかわかるので、いいのかとも思うんですけど。よろしいでしょうか、目標Ⅱの5年間の評価。

では、次の基本目標Ⅲのところに行きます。まずは、27年度評価についてご意見をお願いします。

加藤委員 このところ、「た」じゃないと、一番上のところ、「把握したうえで」……。

山本主任主事 そうです。すいません。

三澤会長 ごめんなさい、何のことでしょうか。

山本主任主事 一番上の丸です。27年度の評価のところ、1行目です、「企業等における労働者の実態を把握して」になっていますが、「したうえで」です。失礼しました。

三澤会長 「したうえで」ですね。ほかにありませんか。よろしいでしょうか。5年間の評価のところでご意見のある方はいらっしゃいますか。はい、山本委員。

山本委員 一番下の「育児や介護に関する取組みについては」というところに、より多くの人に参加できるようにというところを入れたほうがいいんじゃないかと思うので、「より男女とも多くの人に参加できるよう、内容等の工夫や見直しを行い、広く周知してほしい」という。

三澤会長 「より男女とも参加」。

山本委員 「より男女とも多くの人に参加できるよう」、そういう意味で、多分内容とか開催日とかを工夫するというご意見があったと思います。

三澤会長 ほかにご意見ありませんか。よろしいでしょうか。

では、Ⅳの27年度の評価です。よろしいでしょうか。これはわかりやすい。よろしいでしょうか。では、5年間の評価になりますでしょうか。ないですか。

小島委員 ちょっと単純なことだけど……。 「家庭や学校」で点を入れたほうがいいんじゃない？

三澤会長 そうですね。

小島委員 「家庭や学校、各年代層」。

三澤会長 はい。ほかにご意見ありませんか。

山本委員 すごく文章的なことなんですけど、最初に「意識づくりについては」とあって、2行目に「それぞれの場で意識づくりへの理解が必要であるため」と、何か意識づくりが2つ重なっているの、 「それぞれの場での理解」ということでいいのではないか。

三澤会長 それぞれの……。

山本委員 「それぞれの場での」。あと、理解と取り組みも必要かと。

三澤会長 ほかにないでしょうか。私のほうから、これは取ってもらいたいという言葉、文言がありまして、「そのすその野を広げていく」です。裾野ということは、山の上があって下がある。裾野なんですかね。裾野を広げるなんですかというところが、私はずっとこれを読んでから気になっていて、縦と上下じゃないはずなのに、何で裾野が。裾野を広げるという、口頭で言いますが、むしろ取っちゃって、「などあらゆる手段により、より広げていく必要がある」とかのほうが抵抗がないんですが、

それについて、皆さん、それはどうかというのが。裾野、市民の裾野、何ですかね。それはちょっと気になっています。よろしいでしょうか、5年間の評価は。よろしいでしょうか。

それでは、事務局案、資料2のところを終了したいと思うんですが、あと、総評……、次に事業別意見、ごめんなさい、事務局、5まで終わって、事業別意見は。

山本主任主事 先ほど、こちらのほうの事業別の意見をそれぞれ見ていただいたので。

協働文化推進課長 基本目標ごとに、総括というか、総評のほう、27年度の分と5カ年の部分を入れていただきまして、それについては、事業別の意見も事務局のほうでまとめて入れ込んだものをお示ししたほうがわかりやすいということで、そういったものをつくって委員の皆様にお送りさせていただいて、ご意見をいただくような形をとらせていただく。総評的な修正案、追加案につきましては、事務局のほうで直したものを一応報告書の書式の中に全て落とし込んで、案という形で作り上げたものをお送りさせていただくということでしょうか。

三澤会長 よろしいですか。メールなり郵便なりでお送りいただけるということですね。

協働文化推進課長 はい。それに対して再度ご意見等をいただければと考えておりますが、そのような流れでよろしいか。

三澤会長 よろしいですか、皆さん。

小島委員 それって、いつごろ来て、いつまでに返せばいいんですか。

協働文化推進課長 そうしましたら、9月末までにはお送りさせていただければと考えておりますが、よろしいでしょうか。

三澤会長 はい。それでは、一応IからIVまでの評価のまとめについての審議は終わります。今後の流れは、今ちょっと、先ほどご説明がありましたが、9月中に表の中に落とし込んだものを、文言も含めて加筆修正したものをお送りいただけます。それをいつまでに？

協働文化推進課長 9月末までにお送りしまして、10月中旬ぐらいまでにご意見、それから修正案等があれば頂戴できればと考えております。改めて文書で、その辺の詳しい日程はお送りさせていただければと考えております。

三澤会長 ありがとうございます。それでは、事務局のほうにお戻しまするので、お願いします。

山本主任主事 皆様のほうに事務局案をまたお送りしますので、よろしくお願いいたします。確認させていただいて公表へつなげていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

三澤会長 また、最終的な確認段階で、細かい文章表現、てにをはも含めまして、事務局と私、会長のほうにご一任をいただけたらそれで進めさせていただいて、皆様にお送りするという形にさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

三澤会長 では、よろしくお願いいたします。それでは、議題につきましてはこれで終了とする。引き続き、その他、小島委員さんのほうから何かご提案があるようなので、どうぞ。

小島委員 うちのほうでいろいろと講座をやるので、介護離職の問題と、あともう一つは保育所の問題。保育園とか、今、何ですか、保育園落ちたとか、そういう問題もあるので、そういうのをやるので、皆さんよかったらということでチラシを配付させていただきたいんですけど、よろしくをお願いします。

三澤会長 ほかに委員さんのほうから、何か。大丈夫ですか。それでは、ないようでしたら、事務局から何かありますか。山本さん。

山本主任主事 次回の会議は3月を予定しております。内容については、29年度の事業計画をご審議していただく予定になりますので、よろしくお願ひいたします。

町では、男女共同参画社会の形成を目指して、神奈川県との連携事業として毎年講座を開催しております。昨年度は古瀬正也さんを講師にお迎えし、「自分らしいリーダーシップ発見講座」をワークショップ形式で開催させていただきました。今年度も、1月から2月にかけて講演会形式で開催したいと考えております。先ほどもちょっと出ましたが、男女共同参画の実現に向けての意識啓発につながるような内容を検討しておりますが、テーマや講師の選定について何かご意見等がございましたら、この場でも結構ですのでご意見をいただきたいのですが。

協働文化推進課長 ちょっと補足します。町のほうでは、男女共同参画の意識づけといいますか、また、女性リーダーの育成を目指した講座というのを毎年開催しているんですが、ここ2年間は1年目に講演会を開催いたしまして、男性も女性も、地域での男女共同参画をどう進めていったらいいか、男女共同参画の基本的なことを理解していただいて、そのためには皆さんこういうことに取り組んでいきましょうというような、そういう意識づけの講座を1年目は開催させていただいて、2年目は、そこから地域のリーダーになるような人材を育てていく必要が、男女共同参画の意識を持っていろいろな分野で活躍していただけるような人たちを育てていこうということで、昨年はワークショップ形式で講座を開催した。事務局としては、そういう形で意識づけ、核になるような人を育てるといようなサイクルで何回か繰り返すことによって意識が一層広がり、なおかつリーダー的な方を育成できたという形で、男女共同参画の講座の開催については取り組んでまいりたいと考えております。今年1年目、また振り出しに戻って1年目の意識づけ、男女共同参画に対する理解を深めていただいたり、男性、女性、それぞれが、自分は何が必要か、何をしたらいいかみたいところを考えていただく講座を考えているんですけども、委員の皆様からいただいた今回のご意見の中にも、協議会にぜひ意見を聞いてくださいというようなご意見もあったことですから、例えば「こんな講座がいいんじゃないですか」とか「私、一回こういう先生のお話を聞いてすごくよかったので、こんな先生なんかもいいんじゃないですか」という、ほんとにざっくばらんな感じでご意見とか情報をいただけたらと思ひまして、ちょっとお時間をいただいて、委員の皆様からそういったお話があればと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

三澤会長 今、提案がありまして、いろんな講座に皆さんご参加されたこともおありだと思うんですけども、ぜひ、こういう講師がいて、とても魅力的で、寝る間もないぐらいおもしろい講座を受けたことがあるよと。ぜひ男女共同参画に、絡めようと思えば幾らでも男女共同参画に絡めることができると思いますので。私なんかも、ワークショップ形式で、あの先生がいいかなという方がいらっしゃるんですが、誰か、あの先生がよかったとか、あの講座がいいんじゃないかみたいなご提案はありませんか。

大関委員 誰だというのは別として、女性起業家の人の話を聞くというのはとても素晴らしいことだと思うんですね。成功されている、中小というよりも、中ぐらいの会社の女性の社長さん。その人が相当苦勞してそこまで持っていつているはずなので、そういう人の話が聞けたらほんとにいいんじゃないかと思えますけど。

三澤会長 そうですよ。何かやってみようかとか、こんなご苦勞をされて、やりながら、もしかしたら家庭も両立しているんだったら、何というか、夢がある話ですよ。どなたかわからないですが、勝手に想像するところによると。今、大関委員のほうからご提案がありましたが、ほかの方でいらっしゃいますか。

町民部長 いつでも結構ですので、情報がありましたら、ぜひ事務局のほうによろしくお願いいたします。

三澤会長 電話でもメールでもいいので、こういう講座があったらということで、お知らせをいただくと助かるということですね。

山本主任主事 すいません、あと2点ほど、こちらの協議会は来年の3月で2年の任期が終了します。それに伴い、公募委員さんの募集を1月ごろさせていただく予定です。詳しくは広報さむかわの1月号に掲載予定ですが、公募委員の周知及びどなたかお知り合いの方とかをご紹介いただければと思いますので、その節は何とぞよろしくお願いいたします。

最後に、もう一点、先ほどチラシを机上配付させていただきましたが、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町で組織しております湘南広域都市行政協議会の中で、2市1町の広域連携事業といたしまして、男女共同参画特別講演会を開催いたします。お手元にチラシを配付させていただきましたが、10月15日、太田差恵子さんを講師に迎え、藤沢市の湘南NDビル6階で開催いたします。ご都合がつくようでしたら、ぜひご参加いただきたいと思いますので、その節はどうぞよろしくお願いいたします。参加希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。事務局からは以上です。会長、お願いいたします。

三澤会長 ありがとうございます。ほんとに介護は突然やってくるからね。会社をやめなければいけないということで、いろいろ社会問題にもなっております。他人事じゃないなと思います。ぜひ皆さんご参加ください。それでは、これで本日の日程を終了とする。進行を事務局にお返しします。

協働文化推進課長 三澤会長、ほんとに長時間の議事進行、ありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては、ほんとに

	<p>長時間にわたりましていろいろなご意見等を賜りましてありがとうございました。</p> <p>また、本日の会議資料は、事務局のほうで配慮が足りない部分が多々ございまして、非常にわかりにくいものになってしまいましたことを改めましておわび申し上げます。この後、9月中には委員の皆様は、先ほど申し上げましたとおり報告書の案という形でお送りさせていただきますので、またお手間をとらせてしまいますが、ぜひその案に対してのご意見、修正案等をお寄せいただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、今後も寒川の男女共同参画プランの推進にご協力をお願いいたしまして、本日の会議は終了とさせていただきたいと思うんですけれども、最後に閉会の言葉を橋本副会長のほうからお願いできたらと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>橋本副会長 皆様、どうもお疲れさまでした。多数の意見、もうほんとに、私もいつもこの会議に来させていただいて、ほんとに私は不勉強で、なかなかあれだなといつも思っているんです。</p> <p>けれども、自分自身、こういう男女共同参画の審議に参加させていただいて、私自身ももっともって自己啓発、それから、私なんか育った時代は、男社会の真ただ中のところに育ったものですから、なかなかそこから自分自身も抜け切れなくて、でも、やはり男の立場、女の立場、それを考慮した上で男女共同できるものが何かないかという思うんですけれども、それがなかなか、自分自身はなかなか計画ができないんですけれども、ぜひ寒川町の男女共同参画プラン、よりよい発展のためにご協力をお願いいたします。ありがとうございました。</p> <p>三澤会長 ありがとうございました。お疲れさまでした。</p>
	<p>○資料No.1 さむかわ男女共同参画プラン推進協議会委員 個別記入用紙（各委員による意見）</p> <p>○資料No.2 事務局提案 総評</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>・原委員 ・大関委員</p> <p style="text-align: right;">（平成29年3月17日確定）</p>